

# 進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011. 12. 15

No. 70

## 考えることと実行すること

何かを作ろうとする時に、まず頭の中でこうすればこうなるとその手順等を描いてみます。一通りイメージできるともうそれで出来たつもりになりがちですが、いざそれを具体的に作ろうとすると現実にはなかなか思うように出来ず様々な試行錯誤を繰り返すものです。もの造りは特にそうです。そこに優れた熟練工の技が求められるのです。



もの造りと言わないまでも、何かをしようとする時にややもするとこうしたことが起きがちです。今の時代はコンピューターや映像等で簡単にバーチャルな世界を描いたり疑似体験が出来るようになりました。それによりすべて分かったような感覚にとらわれ、実際にやってみようとしなくなりがちです。しかしものごとは自分で実際にその場に行き自ら体験してみないと分からないことが沢山あります。**現実の中で試行錯誤してみても初めて分かることはいっぱいあります。**そうした体験を通じて人間は色々なことを考え、さらなる工夫をしたりするものです。現実の体験の少ない若い設計者が頭の中だけで設計したものは、往々にして使いものにならないということがありがちです。テレビ等で外国の映像を見てそこへ行ったつもりであっても、実際にその場に行き五感を通じてその場の空気に接すると全く違った感想が持てるものです。

経験の少ない人が頭の中だけで考えたことは案外現実から遊離し空回りすることが少なくありません。特にゲームや、携帯電話等バーチャルな世界に接する機会の多い若い皆さんは、「**現実**に接し体験してみてものを考える」ことを心がけて欲しいものです。

## 過去を悔いるより今を精一杯生きる

いよいよ年の瀬も迫り一年間を振り返り新年への決意を新たにす時期を迎えようとしています。私達は過去を振り返った時、往々にして「あのときああすれば良かった」といった悔いを感じずるものです。中にはいつまでもそうした悔いにとらわれ、いつも後ろ向き思考に陥りがちな人もいます。しかし、**過去は今更考えても変えることは出来ません。**早く気持ちを切り替えて「今を精一杯生きる」よう考えることが

大切でしょう。これから変えられるのは未来だけです。再び過去の悔いを繰り返さないように、**現実の今をどう生きるかにもっと気を使うべき**でしょう。



(一刀斎夢録、浅田次郎)

いい若い者が  
いちいち明日のことを  
考えてはならぬぞ。  
きよの力は  
きよのうちに使い果たせ。  
さすれば明日は明日でまた  
新たなる力が湧く。  
骨惜しみは  
新たなる力の妨げになると思え。  
日々使い果たし、  
日々生まれ変わる。  
若者はそうでなくてはならぬ。  
いや、若者ならずとも、  
人間はみな一生、  
そうでなくてはなるまい。